

鳳笙 ^{ほうしょう} 成田智明 (所沢市・浄土真宗本願寺派善了寺)
箏 ^{ひちりき} 榎本明覚 (春日部市・浄土真宗本願寺派善巧寺)
龍笛 ^{りゅうてき} 福井学誠 (吉見町・浄土真宗本願寺派浄泉寺)
進行 網代豊和 (東松山市・浄土真宗本願寺派西照寺)

1月7日(土)19:00～
おがわ温泉花和楽の湯

新年おめでとうございます。わたしたちはいずれも浄土真宗本願寺派の埼玉県内で活動する僧侶です。雅楽とは、奈良時代から平安時代にかけて宮廷で完成された日本最古の音楽のひとつで、中国の俗楽(宴会の音楽)が起源とされます。管楽器は鳳笙、箏、龍笛、弦楽器は箏、琵琶、打楽器は太鼓、鞆鼓、鉦鼓があり、寺院や神社の儀式などで用いられています。浄土真宗本願寺派(本山・西本願寺、京都市下京区)では、江戸時代はじめから法要と儀式に雅楽を用いており、現在では声明(美しい旋律のお経)とあわせて、雅楽演奏の技術向上が僧侶に課せられた修学のひとつになっています。雅楽では指揮者を置かず、演奏する者同士が互いの拍を感じながら息を合わせて演奏します。日常でも「互いに息を合わせる」、是非心がけたいものです。

本日の演奏

- 一 ^{ひょうじょうねとり} 平調音取
- 一 ^{えてんらく} 越殿楽
- 一 楽器紹介
- 一 ^{ばいろ} 陪臚



新春雅楽の夕べ